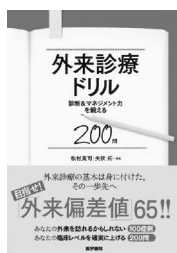


〔評者〕
鈴木富雄
大阪医大病院総合診療科
長



外来診療ドリル 診断&マネジメント力を鍛える 200問

松村真司，矢吹 拓 編

●B5・頁212 2016年4月

定価：本体4,200円＋税

[ISBN978-4-260-02505-8]医学書院刊

『外来診療ドリル』。「ドリル」と名前がついたこの本は、気軽に読めるようで実は極めて骨太の本である。今回書評の依頼をいただいたので、ひとまず問題を解きながら全て通読してみた。最初は「1日20問、10日で終了できる。これは軽い」と思っていたが、大きな間違いであった。問題を解き始めてみると、「うーん、なるほど!」「そ、そうだったか……」の連続で、なかなか先に進めない。1回目を終了するまでに結局2か月近くもかかり、しかも正答率は大学の進級試験であれば、「なんとか合格点は取れたが……」という体たらく。得点の公表は私も立場があるので、どうかご容赦を……。

あまりの不出来ぶりに自分自身もショックを受け、「このままでは終われない」と、再度挑戦。もう一度初めから終わりまで問題を解いてみた。「今度は2回目だからスイスイ行くだらう」と思っていたが、これまた今一つで、やはり同じところを間違える(笑)。結局2回目も1か月以上かかってしまった。ただし、1回目はとにかく問題をこなすだけであったが、2回目は疑問に思った部分に関して、記載文献を参考に自分でも調べてみる余裕ができた。その上で解説を読み直してみると、コンパクトにまとめられたその記載の素晴らしさに改めて納得することができた。

この本の持ち味は、その問題の多様性と、臨床家の隙を突くような絶妙な難易度にある。また問題と解説がそれぞれ1ページの表と裏に収められ、非常に使いやすい。記載文献の数と選択も適切である。比較的簡単に正解できたとしても、ぜひ解説文を一読いただき、興味を持たれた部分やあやふやな分野に関しては、記載文献を参考に自分で少し調べてみることをお勧めする。ある程度余白もあるので、書き込みもできる。ドリルはドリル。下線と付箋と書き込みで自分だけの一冊にしてこそ価値がある。

このドリルは、総合診療医や家庭医などのジェネラルな分野の専門医をめざす後期研修医のトレーニングにも最適であるが、腕に覚えのあるベテランの臨床家の先生にこそ、ぜひチャレンジしてほしい。まずはその鼻っ柱が折られること間違いない。7割取れば素晴らしい、8割取ればトレビアン、9割取ればレジェンドの域といえよう。

ちなみに私は、「ここまでできたら」との思いで3回目にチャレンジしてみた。今度は1週間で終了し、ようやく全問正解。書評の依頼をいただいてから、4か月目にしようやく完全制覇。下線と付箋と書き込みで手垢にまみれたこのドリルは、私の大切な一冊となった。